



2019.02 / Vol. 39 / Soccer Journal デュッセルドルフ生活を楽しくするマガジン

フォルトウナ通信

FORTUNA AKTUELL - Japanese Version



8日間で勝ち点9点を獲得

3 SIEGE MIT 9 PUNKTEN IN 8 TAGEN

スペインキャンプ2019

TRAININGSLAGER 2019 IN SPANIEN

テレコムカップ2019は3位でフィニッシュ

DRITTER BEIM TELEKOM CUP 2019





冬に最適

あらゆる氷雪路で
優れたグリップ性能を発揮



日本人フォルトゥナファンの皆様

Liebe japanischen Freunde von Fortuna Düsseldorf

フォルトゥナ・デュッセルドルフファイナンシャルチーフ アレクシス・ヴィヴィアン・ブーフ

Alexis-Vivian Buch, Leiter Finanzen von Fortuna Düsseldorf

この日本語マガジン「フォルトゥナ通信」で皆様にご挨拶をできることを非常に嬉しく、そして光栄に思います。私は半年前からこのクラブのファイナンスの責任者を担っているヴィヴィアン・ブーフと申します。デュッセルドルフ生まれの私は、幼少期からフォルトゥナのファンですが、サッカーへの情熱に加え、ほかのスポーツでも多くの楽しみを見出してきました。今はトライアスロンに取り組んでいますが、そんな私にとっての初めてのスポーツは柔道でした。その頃に多くの日本人の友人がで、その中で礼儀や助け合いの精神、誠実さや尊重を学んだことをよく覚えています。

フォルトゥナは現在、財政的に非常に安定しています。2年間の損失を経て、我々は17/18シーズ

ンには約160万ユーロの利益を達成しました。これは日本円で言うと約2億円に相当します。クラブは資産を増やすことができている中で、現在は新しいユースアカデミーセンターに投資を行っています。まもなく完成しますが、これによりクラブの未来を支えるタレントたちを育てていくための、非常に重要なベースが整うことになるのです。

サッカー界のタレントと言えば、今シーズンの初めにレンタル契約の延長に成功し、さらに1年フォルトゥナでプレーしてくれている宇佐美貴史の存在があります。昨シーズンの活躍から、我々の背番号33番がクラブにとっていかに重要であり、チームの成果にも欠かせない存在であるかということは明確ですが、その中でも特に、ヘル



タBSC戦で決めた“タカ”の豪快なゴールは、それまで続いていた7試合勝ち星なしという苦しい状況を打ち破る貴重な得点となりました。

私は今シーズン、必ず1部残留を果たせるものと確信していますし、少なくともまた来年もドイツの最高リーグで戦えるものと思っています。そのためにも、多くの日本コミュニティの皆様がともにこの道を進み、ときにスタジアムで、ときに映像を通して、我々に声援を送ってくれば非常に嬉しいです。

Impressum



Herausgeber 発行元:
Fortuna Düsseldorf 1895 e.V.
Ringer Broich 87
40235 Düsseldorf

Leitung 情報管理:
Thomas Gassmann
(medien@f95.de)

Chefredaktion 編集長:
Gengo Seta
(japandesk@f95.de)

Fotos 写真:
Christof Wolff,
Thorsten Schmidtkord,
Simon Koch

Layout レイアウト:
Christian Lewandowski

Druck 印刷:
Clasen GmbH



後半戦は順調な滑り出し

Ein ordentlicher Start in die Rückrunde

後期開幕戦をアウェーで迎えたフォルトウナは、前期に敗れたFCアウグスブルクに2-1で勝利し、年末から続く連勝を4に伸ばすことに成功した。しかし2019年最初のホーム試合となったライプチヒ戦では、ミスから失点を重ね、0-4の敗戦を喫してしまう。それでも続くTSGホッフェンハイム戦では、再び安定したパフォーマンスを披露し、1-1の引き分けで勝ち点1点を獲得するなど、後期リーグは順調な滑り出しとなった。

第18節

FC AUGSBURG 1-2 F95



短いウィンターブレイク明けとなった後半戦最初の試合は、アウェーでのFCアウグスブルク戦。レンタル元クラブとの一戦に向けて、宇佐美貴史も5試合連続でスタメン入り。しかし立ち上がりはホームチームが積極的にチャンスを作る展開となる。それでもミヒャエル・レンジングを中心にこの攻撃を凌ぐと、前半終了間際、前線で宇佐美が起点となり、最後はドディ・ルケバキオのセンタリングに昨季2部得点王のマーヴ

イン・ドゥクシュが頭で合わせ、フォルトウナがリードを奪うことに成功する。

最高の時間帯にリードを奪ったフォルトウナだったが、後半は立ち上がりから再び相手の攻勢に苦しめられる。そして64分、ヨナタン・シュミットに直接フリーキックを決められ、試合は振り出しに戻されてしまう。しかしフリードヘルム・フンケル監督は、この試合での勝利を目指して積極的に攻撃のカードを切る。すると89分、中

盤でアルフレド・モラレスが相手からボールを奪い返すと、そのまま前線に走り出したベニート・ラマンへロングパス。ベルギー人アタッカーはこのボールを完璧にトラップすると、右足を一閃。ボールは相手GKの足下を抜け、アウグスブルクゴールに吸い込まれていった。結局これが決勝点となり、フォルトウナが後半戦最初の試合で好スタートを切っただけでなく、年末からの連勝を4に伸ばすことにも成功した。

第19節

F95 0-4 LEIPZIG



フォルトウナのレジェンド選手であり、1954年W杯優勝メンバーであるトニ・トゥレックが、1月18日に生誕100周年を迎えたことを記念して作られた特別ユニフォームを着用したこの一戦。しかし試合は思いもよらない立ち上がりとなる。2分、相

手のコーナーキックのこぼれ球をユセフ・ポウルセンに蹴り込まれると、9分にもイブラヒマ・コナーテに追加点を奪われてしまう。その後も落ち着きを取り戻せないフォルトウナは簡単なボールロストを繰り返すと、16分には再びポウルセンに

決められ、リードを3点に広げられてしまう。

前半早々に3失点を喫したフォルトウナだったが、宇佐美が攻撃の糸口を作り出す。前半27分には右サイドから、そして後半の立ち上がりには左サイドから、それぞれ突破しチャンスめく。しかしどちらも得点には至らない。さらに55分には、オーバーラップしたマルチン・カミンスキが抜け出しフィニッシュにラストパスも、僅かに届かずチャンスを逃してしまう。続くコーナーキックからは、ドウクシュが好機を得るも、シュートはポウルセンに弾き返され、ゴールラインを割ることができない。すると逆に68分にコンラート・ライマーに4点目を決められ万事休す。結局この日は0-4の完敗となり、2019年最初の黒星を喫するとともに、5連勝のチャンスを逃すこととなった。

第20節

TSG HOFFENHEIM 1-1 F95

1週間で3試合をこなすイングリッシュウィークの初戦となったアウェーTSGホッフェンハイム戦。この試合で3-5-2のフォーメーションを選択したフォルトウナは、ロウヴェン・ヘニングスが立ち上がりに決定機を作ると(4分)、その1分後にはカーン・アイハンが頭で狙うも、どちらも決めることができない。すると15分、ホッフェンハイムの素早いカウンターに対応したアダム・ボツツェックがペナルティエリア内でデニス・ガイガーを倒してしまう。そしてこのPKをアンドレイ・クラマビッチに決められ、先制を許すことに。

しかし後半の立ち上がりは、フォルトウナが最高のスタートを切る。右サイドでボールを受けたケヴィン・シュトゥーガーが前線へ鋭いロングボールを送ると、ヘニン



グスがダイレクトでヘディングシュート。これが相手ゴールに吸い込まれて同点ゴールが生まれることに(47分)。その後も両サイドを崩しながら決勝点を狙ったフォルト

ウナだったが、これ以上はゴールネットを揺らすことができず。それでも強敵を相手にアウェーで価値ある勝ち点1点を獲得することとなった。

» TAKA TALK «



宇佐美貴史

33 / Takashi Usami

自身4度目のブンデスリーガの舞台に挑む、“タカ”こと宇佐美貴史。今シーズンは昇格クラブとして半年を過ごし、14位で折り返したフォルトウナの前半戦を振り返りつつ、ウィンターブレイクを踏まえ、後半戦に向けての抱負を語ってくれた。

まずは前半戦を振り返って。

合流が遅れたことで最初の方はなかなか試合に出られませんでした。そこには自分の思うコンディションと、監督が求めるコンディションに少しギャップもあったのですが、その辺は監督がきちんと話してくれたおかげで、そこが埋まってきたときに、徐々に使ってもらえるようになったかなと思います。

苦しい6連敗を乗り越えたゴール。

もちろん自分のゴールは嬉しかったですが、それ以上に結果に繋がったことがみんなの自信になったと感じました。それまでは点は獲れない、守り切ることもできない、じゃあどうすれば勝てるんだ？っていう雰囲気があったので。そしてそれに続くバイエルン戦で引き分けられたこと、ドルトムント戦に勝利してきたことなどから、みんなの中にこうやって堅守速攻で挑めば、あれだけの相手でも戦えるんだっていう感覚は生まれてきていたと思いますね。

前期は終盤にかけて4試合連続スタメン。

個人的にはとにかく守備の部分をすごく意識してやってきました。自分のサイドからは絶対にやられないという強い

気持ちで、ニコ(・ギーゼلمان)とコミュニケーションを取って、しっかり対応できていたと思います。攻撃面では良い意味でボールを落ち着かせる役割というか、負けているときに簡単にボールロストをするとチームに負担になるので、そういうときはしっかりとボールをキープできるように意識してプレーしていました。

監督からの信頼や評価、求められるプレーは？

特にオフェンスに関して言われることはありません。むしろ自由にやれて感じですね。でもディフェンスに関しては、とにかく相手に強くいくことを求められます。激しいディフェンスができているときはとても褒めてくれますし、監督が求めていることは理解できているつもりです。言い方を変えると、そういう部分がしっかりとできるようになってきたことで、(ゴールにこだわった)数字だけではなく、ある程度信用して使ってもらえているのかなと。バイエルン戦やドルトムント戦はどうしてもディフェンシブに戦う戦術を採ることになりましたが、そこでも(先発で)使ってもらえていたのは、その辺も認めてもらえているのかなと思っています。

前期最終戦の(ハノーファー戦での)原口元気との再会について。

元気くんは自分にとっては、海外で初めてチームメイトして一緒に時間を過ごした日本人の仲間なので。試合をするときは敵になりますが、頑張ってもらいたいとは常々思っています。でもこの対戦のときは、絶対にやられないという気持ちでしたけどね。

ウィンターキャンプから良い感覚で後半戦がスタート。

この冬はしっかりとチームと一緒に良い準備をして、後半戦もスタメンでスタートできました。ここからはシーズンとともに、もっとコンディションが上がってくると思いますが、その中ではもちろんしっかりと守備をやりながら、良い意味で駆け引きをして、勝負をかけるときに仕掛けるチャンスも狙っていきたいです。負けはしましたが、ライブチヒ戦ではチームが苦しいところで、サイドで仕掛けるというトライを試みたんです。その中では、結構イケると感じることもありましたし、しっかりと自分で完結できるプレーならばこれからはもっと仕掛けてもいいかなというフィーリングは掴めました。

ウィンターキャンプで対戦した香川真司選手の移籍について。

スペインキャンプでドルトムントと対戦したので、その時に少し話しました。(香川選手は)ドルトムントで出場機会を失って難しい時間を過ごしていましたが、トルコのベシクタシュに移籍が決まった直後のデビュー戦で、いきなり2ゴール。あれはまさに苦しいときに積み上げてきた証拠だと思いました。正直、刺激を受けたというよりも感動しました。もちろんボクも頑張ろうと思いましたが、何よりも尊敬の念が強かったです。

最後に後半戦、自身とチームの目標は。

いつも言っていることですが、やはり昇格クラブのボクたちにとって、最大の目標は1部リーグ残留です。そして個人的にはその中でしっかりと結果に貢献していきたいです。もちろん(得点数という)数字にもこだわっていききたいと思います。自分の数字にこだわり、その数字がチームの結果に貢献できることが理想ですね。



ルケバキオがFCバイエルン戦で3発！！

Lukebakios Dreierpack gegen den FC Bayern München



フォルトウナは第12節にアウェーでFCバイエルンと対戦し、勝ち点1点を獲得することに成功した。試合は途中2度相手に2点のリードを許す展開も、ドディ・ルケバキオがドイツレコードマイスターを相手に3度ゴールネットを揺らす衝撃のパフォーマンスを見せ、3-3の引き分けでタイムアップとなった。

アウェーでのFCバイエルン戦を前にフンケル監督は、スピードスターのルケバキオをワントップに据え、4-1-4-1のシステムを採用することに。すると立ち上がりからフォルトウナがチャンスを作り出す。1分、カウンター攻撃を仕掛けると、宇佐美がドリブルで持ち上がりルケバキオヘラストパス。しかしベルギー人アタッカーのシュートは、ドイツ代表GKマニュエル・

ノイアーのセーブに阻まれる。さらに左サイドでボールを受けた宇佐美が、カットインしながら自らミドルシュートで狙うも、またもノイアーが立ちはだかる(2分)。

一方のバイエルンは14分、ジェロム・ボアテングが危険なシュートを放つと、17分にはコーナーキックから、最後はニクラス・ズーレが蹴り込み、先制点を記録する。さらにその3分後には、ボアテン

グからのロングボールに抜け出したトーマス・ミュラーに追加点を許し、点差を2点に広げられてしまう(20分)。

その後は試合前の予想通り、バイエルンの高いボールキープの中、フォルトウナがそれに対応するためにピッチを走り回る展開となる。しかしこの集中したディフェンスが前半終了間際に結果を生むこととなる。

FC Bayern 2-1 F95 (45分)



44分、マティアス・ツィマーマンからのロングパスに抜け出したツィマーがボアテングと競り合い、最後は倒れ込みながら執念のセンタリングを上げると、このパスに誰よりも早くルケバキオが反応。そのまま右足で強烈なシュートを放つと、ボールはバイエルンゴールに突き刺さることに。これによりフォルトウナは、前半を1点のビハインドとしてハーフタイムを迎えた。

FC Bayern 3-2 F95 (78分)

しかし後半に入り再び攻勢に出たバイエルンは、52分にロベルト・レヴァンドフスキが危険なシュートを放つと、57分にはミュラーがこの日2点目を決め、再びリードが2点に広がってしまう。それでも諦めないフォルトウナは、カウンターとセットプレーで応戦すると、78分にはオフサイドギリギリで抜け出したルケバキオが、バイエルンディフェンス陣を置き去りにし、再びノイアーの守るバイエルンのゴールネットを揺らして見せる(78分)。



FC Bayern 3-3 F95 (90分)



1点差となった試合は終盤にかけて緊張感が高まっていく。89分にはレヴァンドフスキが決定的なシーンを迎えるも、シュートは枠の上へ。するとロスタイム、アウェーまで駆けつけていた7000人のフォルトウナファンに、三度歓喜が訪れることに。中盤でのこぼれ球に反応したヘニングスのロングボールへ向かって走り出したルケバキオは、ドイツ代表DFのズーレを振り切り、左足でシュート。これがまたもバイエルンゴールに吸い込まれ、3-3に追いつくことに成功したのだった。





DOODI
LUKEBAKIO

8日間で3連勝し、勝ち点9点を獲得!

3 Siege mit 9 Punkten in 8 Tagen

昇格1年目のクラブにとって、ブンデスリーガでの戦いは茨の道である。それはフォルトゥナにとっても例外ではなく、第14節が終わった時点でチームは18位に沈んでいた。しかし12月のイングリッシュウィーク(8日間で3試合を実施)で3連勝を挙げることに成功し、ラストスパートで勝ち点9点を荒稼ぎしたフォルトゥナは、順位も14位まで浮上させてウィンターブレイク入りすることとなった。

第13節の1.FSVマインツ戦、第14節のヴェルダー・ブレーメン戦で連敗を喫し、苦しい状況の中、ホームでSCフライブルクを迎え撃った第15節、ついにフォルトゥナが覚醒する。この試合でスタメン復帰となったアイハンが、56分に宇佐美のコーナーキックに合わせて先制ゴールを奪うと、79分にも再び宇佐美のコーナーキックから、カミンスキの折り返しを押し込み、自身2点目を記録。この2点を守り切ったフォルトゥナが、第11節以来の勝ち点3点を獲得した。

その4日後、再びホーム試合となった第16節の相手は、ここまで

無敗で首位を独走するボルシア・ドルトムント。誰もが劣勢を予想する中、試合は全く別の展開を見せることになる。フォルトゥナは立ち上がりから積極的にカウンター攻撃を仕掛けると、その勢いそのままに22分にルケバキオが先制ゴール。超満員のメルキュア・シュピールアリーナが大興奮に包まれると、56分には宇佐美からのパスを受けたショーン・ツィマーが右足を一閃。強烈なシュートがドルトムントゴールに吸い込まれ、リードを広げることに。その後、パコ・アルカセルに1点を返されるも、1点のリードを守り抜きタイムアップ。2-1のジャイアントキリン

グを達成することに成功した。

2018年最後の試合となった第17節は、残留争いのライバルであり、昨季フォルトゥナで活躍した原口元気擁するハノーファー96とのアウェーマッチ。試合は下位に沈むチーム同士らしく、決定機をなかなか活かせない展開に。ところがスコアレスのまま迎えたロスタイム、ジョーカーとして投入されたオリバー・フィンクのシュートが相手GKの腕を弾いてゴールイン。このラストミニッツゴールにより、値千金の勝ち点3点を獲得したフォルトゥナが3連勝を達成し、順位も14位まで浮上させることとなった。

第15節

F95 2-0 SC FREIBURG



第16節

F95 2-1 BORUSSIA DORTMUND

第17節

HANNOVER 96 0-1 F95



スペインキャンプ 2019

Trainingslager in Spanien 2019



2018年を3連勝で締めくくったフォルトゥナは、つかの間のウィンターブレイクを過ごしたのち、新年は毎年恒例のスペインキャンプでスタート。現地では2試合のテストマッチを行うなど、後半戦に向けて集中したトレーニングを実施した。

1月5日の早朝、デュッセルドルフ空港を出発したフォルトゥナ一行は、スペインのマラガ空港に降り立ったのち、バスでキャンプ地となるマルベリャへ移動。毎年恒例となった1月のスペインキャンプは、1月19日から再開する後半戦に向けて、8日間の集中したものとなった。

現地では毎日2部練習を行いながら、2試合のテストマッチを実施。最初の試合は、今季のブンデスリーガで首位を独走しているボルシア・ドルトムントとの対戦。記憶にも新しい12月の激闘(2-1で勝利)から1ヶ月も経たない中での再戦となったこの試合は、フォルトゥナがシュトゥーガーのゴールで先制する。その後、マキシミ

リアン・フィリップの連続ゴールで逆転を許すも、後半に入りメンバーを一新したフォルトゥナは、宇佐美のコーナーキックからカミンスキが頭で合わせて、同点に追いつくことに。しかし引き分けで終わると思われた試合は、終了間際の失点により2-3となり、惜しくも敗れることとなった。

テストマッチ2戦目は、オランダ1部リーグに所属するFCエメンとの一戦。この試合でもフンケル監督は、前半と後半のメンバーをほぼ交代させ、可能な限り多くの選手の状態をチェック。しかし宇佐美も出場した前半は、多くのチャンスを活かしきれず、スコアレスのままハーフタイムを迎えることに。一方後半は、新しくピッチに立っ

たアイメン・バーコックが躍動。ロングボールを受けて左サイドをドリブル突破すると、フィンのゴールをアシストして見せる。その後もいくつかのチャンスを作ったフォルトゥナだったが、追加点を決めることはできず、結局これが決勝点となって、1-0の勝利を収めることとなった。

なお、このスペインキャンプ中に、ダフォア・ロブレン(腹部筋肉の炎症)、マルセル・ゾボットカ(足首靱帯損傷)、ツィマー(太腿肉離れ)が負傷離脱することとなったほか、ハーヴァード・ニールセンがシーズン終了までブンデスリーガ2部クラブMSVデュイスブルクへレンタル移籍することが発表された。



テレコムカップ2019は3位でフィニッシュ

Fortuna wird Dritter beim Telekom Cup 2019

後期リーグ開幕直前の1月13日(日)、デュッセルドルフで第10回テレコムカップが開催された。1試合を45分ずつで行う変則トーナメント大会の第1試合でFCバイエルンと対戦し、惜しくもPK戦で敗れたフンケル監督率いるフォルトゥナは、3位決定戦ではヘルタBSC相手に素晴らしいパフォーマンスを披露し、3-1の勝利を収めることに。なお決勝戦では、バイエルンがPK戦の末にボルシアMGを4-2で破り、今年のテレコムカップの優勝を飾った。



第1試合

F95 0-0 (PK 7-8) FC Bayern

第1試合に登場したフォルトゥナは、ドイツレコードマイスターを相手にリーグ戦で対戦したときと同様に4-1-4-1のフォーメーションを選択。宇佐美も左サイドMFとしてピッチに立ち、キックオフを迎えた。

試合はフォルトゥナが良い立ち上がりを見せるも、最初のシュートチャンスはやはりバイエルン。しかしレナト・サンチェスがミドルシュートは僅かにフォルトゥナゴールマウスを逸れていく。その後もフォルトゥナ陣内で緊張感のある攻防が続くも、レンジングを中心にディフェンス陣が堅守を貫き、得点は与えない。

するとフォルトゥナがチャンスを作り始める。23分、宇佐美が左サイドから仕掛けると、ドリブル突破から中央へセンタリング。これを受けたニコ・ギーゼルマンがトラッ

プからシュートも、これはボールをミートすることができず。続いてはルケバキオが右サイドから、ジョシュア・キミヒを交わしてシュートも、サイドネット外を揺らすのみで、ゴールには至らない。

一方バイエルンも33分にキングレイ・コマンが、また34分にはキミヒがフォルトゥナゴールに迫るも、失点は許さない。そうして45分

間のハイレベルな試合ではゴールが生まれることはなく、勝敗はPK戦へと委ねられることに。

PK戦では5人ずつを蹴ってそれぞれが1人ずつ外したため、サドンデスに突入する接戦になるも、9人目に登場した宇佐美が外したのに対し、ズーレがきっちり決めたバイエルンが、僅差で決勝への切符を掴むこととなった。

第2試合

Borussia MG 1-0 Hertha BSC

第2試合に登場したヘルタとボルシア・メルヘングラッドバッハの一戦は、立ち上がりの4分にベルギー代表のトルガン・アザール(ボルシアMG)が強烈なミドルシュ

ートを決めてリードを奪うことに。その後は両チームともにチャンスを作るも決めきれず、その結果1-0でボルシアMGが決勝進出となった。



3位決定戦

F95 3-1 Hertha BSC

3位決定戦に向けて、宇佐美を含む両サイドのMFとDFを残し、それ以外7つのポジション変更を行ったフンケル監督。ゴールマウスには新加入のGKヤロスラフ・ドロブニーが入り、キックオフを迎えた。

しかし試合は思わぬ立ち上がりとなる。2分、この日フォルトウナデビューとなったドロブニーの横パスを奪われると、そのままパスカル・ケプケに先制点を奪われてしまう。それでもすぐに反撃に出たフォルトウナは9分、ラマンが右サイドを突破して最初のチャンスを作ると、その3分後には左サイドを突破したバーコックの折り返しをケナン・カラマンが合わせて、ゴールネットを揺らすことに成功する(12分)。

さらに攻勢の続くフォルトウナは23分、中央でボールをコントロー

ルした宇佐美から右サイドのツィーママンへロングパス。これを受けた右サイドバックがすぐさま中央へセンタリングを上げると、ドゥクシュの落としたパスを受けたラマンが倒されてPKを獲得。これをドゥクシュが落ち着いて決めて試合をひっくり返す。さらに27分には、宇佐美からのコーナーキックにアンドレ・ホフマンが頭で合わせるも、これは相手GKのファイン

セーブに阻まれる。

それでも31分、素晴らしいハイプレスからボールを奪ったフォルトウナは、宇佐美からドゥクシュ、バーコック、ラマンとダイレクトパスが繋がると、最後は再びドゥクシュが決めて3-1。結局これが決勝ゴールとなり、フォルトウナが逆転勝利を収め、今年のテレコムカップを3位でフィニッシュすることとなった。

決勝戦

FC Bayern 0-0 (PK 4-2) Borussia MG

今シーズンのブンデスリーガ前期を2位と3位で折り返したトップチーム同士の対戦となった決勝戦は、立ち上がりこそ両チームがチャンスを作るも、徐々にバイ

エルンのペースへ。それでも45分では決着がつかず、その結果PK戦の末、最後は4-2でバイエルンに軍配が上がることとなった。

室内サッカー大会で優勝！

A-Junioren gewinnen Hallenturnier in Göttingen



U19

ウィンターブレイクはドイツでは伝統的に室内サッカーの時期でもある。アペルカンプ真大が所属するU19チームは、今年は2つの室内サッカー大会にエントリーし、ゲッティンゲンでの大会では素晴らしいパフォーマンスと共に、初優勝を飾ることとなった。

合計で28チームがエントリーし、ゲッティンゲンで4日間に渡って開催されたU19 SPARKASSE-VGH-Cupに、マインツ05、ボルシアMG、アイントラハト・フランクフルト、FCアウグスブルク、シャルケ04、ハノーファー96らブンデスリーガクラブと共に参加したフォルトウナ。そのほかにもオーストリア・ヴィーン、AZアルクマール、FCブリュージュ、FCフルハム、マンチェスター・ユナイテッドらヨーロッパのトップチームが参戦する中、フォルトウナは金曜日に初戦を迎えた。

ファーストステージで地元クラブを相手に4勝したフォルトウナは、マインツ05に1-3で敗れるも、FC

フルハムに3-2で勝利し、最初のステージを2位通過することに。次のステージでは1.SC ゲッティンゲンに1-1で引き分けると、FCブリュージュには0-1で敗れ、ここでの敗退が決定したかと思われたが、ファーストステージ2位通過のベストチームとして、ベスト8進出を勝ち取ることとなった。

その後、準々決勝でFCフルハム(4-2)を、また準決勝ではFCアウグスブルク(2-1)を退け、決勝戦進出を手繰り寄せたフォルトウナは、一度敗れているFCブリュージュと優勝をかけて再び対戦することに。試合は先に2点を先行されるも、ノエル・カリスカンとコンノア・クロセックの得点で同点に

迫いつく展開。一步も譲らない試合はその後延長でも決着がつかず、勝利の行方はPK戦へと委ねられることに。

PK戦では5人までミスなく進み、サドンデスへと突入すると、6人目で登場したアペルカンプ真大がきっちりと決めたのに対し、相手の6人目をGKジャスティン・ミューリングがストップ。これによりフォルトウナがこの激闘を制し、優勝を飾ることとなった。なおこれにより、ジニシャ・シュカ監督率いるチームは、優勝カップをデュッセルドルフに持ち帰るとともに、来年はディフェンディングチャンピオンとして参戦することも決定した。

SUSHI KIKAKU

SEIT 1975

**フォルトゥナの
ブンデスリーガ1部残留を
全力で応援しています！**

Restaurant KIKAKU

Klosterstraße 38, 40211 Düsseldorf

Tel: 0211 357853

www.kikaku.de

CLASEN
≡ wo drucken zuhause ist. ≡

Willkommen in der Welt der Farben, Papiere und Druckveredelung. Wir achten darauf, dass sich Funktion, Haptik, Ästhetik und Wirtschaftlichkeit optimal ergänzen. Ihr Design und unsere drucktechnische Kompetenz führen zu perfekten Ergebnissen.

Ob stanzen, prägen, laminieren, lackieren, einen Farbschnitt aufbringen, wir machen fast alles möglich. Wir drucken bis 70 x 100 cm im Offset oder digital mit modernster Technik.

Dicken Karton, Sonderfarben, Hybridprodukte. Mit Bemusterung vorab, mit Druckabnahme, mit dokumentierter Qualitätskontrolle. Auch über Nacht. Auch bis ans andere Ende der Welt. Unser Standort befindet sich 1 km vom Flughafen und der Messe Düsseldorf.

Wer bei uns drucken lässt? Natürlich die Fortuna, die DEG und weitere große Sportvereine. Bekannte Werbeagenturen fühlen sich bei uns wegen der hohen Termintreue wohl. Industriekunden schätzen unsere Beratung und Qualität. Die Stadt und der öffentliche Dienst mag unsere Preise.

Wir sind PSO- (ISO 12647) und FSC®-zertifiziert, drucken klimaneutral und alkoholreduziert (IPA) und erzeugen Strom per Photovoltaik.

Clasen GmbH
Spielberger Weg 66
40474 Düsseldorf

Fon 0211-447290-0
Fax 0211-447290-60
mail@druckerei-clasen
www.druckerei-clasen.de

WITH ROBOTICS, THE FUTURE IS OPEN TO SUGGESTIONS

未来は、オープンだ。アイデアで変えられる。

ロボティクスがいま、空想の世界を飛びだして、現実の世界で新しい可能性を切り拓いています。IoTプラットフォームとつながる日立のロボットは、リアルタイムデータへのアクセスや相互に情報共有を行うことで、人に寄り添い、より豊かなくらしに貢献します。ともに、新しい明日をつくっていくために。

social-innovation.hitachi

Hitachi Social Innovation



**PREMIUM
PARTNER**